

昭和二十二年二月

一、概況	二、産業	三、電力・輸送
四、食糧	五、貿易	六、財政
七、金融	八、通貨	九、物価
十、關取引取締の強化		

一、概況

前月に引き続き産業金融両面に亘り超重点主義が実施せられ、又新たに關取引の取締を強化する等、経済再建への懸命な努力には見るべきものがあつた。然し乍ら是等の努力にも拘らず一方生産は停滞し、他方通貨は増発せられ、インフレーションが悪化の傾向を辿りつゝあることは遺憾に堪えない。

二、産業

前月より実施せられた石炭、鉄鋼を中核とする超重点主義はその第一歩に於て早くも蹉跌を來したが、二月に入りても遺憾乍ら所期の成果を挙げ得なかつた。即ち月中石炭の生産実績は目標二百十三万九千トンに対し二百五万六千トンと八万三千トンの不足を示し、殊に出炭の主力をなす九州地区は成績最も振わず、目標に対し十一万四千トンの大幅不足を來した。かゝる成績不振の原因としては主食配給の不円滑、労賃に対する不満等に基く労務者の勤労意欲低下に加うるに、生産諸資材の入手難を挙げねばならず、就中九州地区に於ては坑木の手持予備は殆んど底を衝きつゝある状況である。従つて是等の諸点を根本的に改善せざる限り、二十二年度三千万トンの目標は到底達成し得ないであろう。

此の如く出炭が目標に対し著しき不足を來たせる結果、鉄鋼に対する配炭は目標十六万トンに対し実績十二万六千トンに過ぎず、加うるに本月より開始せら

るゝものと同期待せられていた月額一万三千キロリットルに上る重油の輸入も竟に実現を見なかつた。かくて鉄鋼の生産は、銑鉄目標一万六千トンに対し実績一万二千トン、鋼材目標三万四千トンに対し実績二万九千トンと、何れも計画を下廻つた。此の爲め石炭に対する鋼材出荷実績は一万二千トンと前月分を合し一万九千トンに止まり、二月中旬迄に完遂すべき目標三万トンに対して六十三%の遂行を見たに過ぎない。

次に其他の重要工業生産状況を窺うに、超重点主義実施の關係上配炭の削減を蒙りたる上に、輸送難、電力消費規整等に災され、各部門共極めて深刻なる事態に追い込まれた。例えば硫酸、石灰窒素の如き、何れも目標に対し七十%程度の生産を見たるに止まり、此の状態にして継続せんか相当量の春肥の不足は免れず、今年度の主食生産は著しい悪影響を蒙らざるを得ないであろう。又国民生活に重大なる關係ある四国地方の製塩業の如きも、中旬に至り完全に竈の火を消すの止むなきに至つた。但し見返物資の中核工業たる織維工業は配炭思わしからざるにも拘らず、前月に比し労務者の稼働日数増加したる關係にて、生糸、綿糸の生産は何れも目標額を若干上廻つた。

以上の状況を綜合するに、月中の生産指数は恐らく前々月に比し下降を示した前月の指数を更に下廻るものと予想して大過あるまい。

終戦後に於ける生産活動指数

(昭和十一年平均一〇〇加重算術平均、国民経済研究協会調)

年月	昭和十一年		昭和十二年	
	八月	三月	三月	一月
工業綜合指數	八七・三・四	一三・四・一八・八	三五・七・七・六	二九・六・三〇・四
消費財平均指數	八・九・六・七	一五・八・一七・六	四・九・三・七	三・三・三・〇
生産財平均指數	二・三・四	一・一・六・一八・四	〇・七・三・〇・八	三・三・三・三・三
平均指數	二・三・四	九・四	二・一・六・一八・四	〇・七・三・〇・八

石炭生産高並鉄鋼向配当量

(単位 千吨)

年 月	昭和二十二年七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	昭和二十三年一月	二月
石炭生産高	一、六三二	一、七九四	一、七五五	一、七九二	二、〇三三	二、一四五	二、〇三三	二、〇五六
鉄鋼向配当量	一〇三・〇	一一二・九	一一一・一	九七・七	一〇六・三	八七・七	一一三・三	一一六・一

普通鋼材生産高並石炭向配当量

(単位 吨)

年 月	三十二年度第三十一年度第一・四半期(七月九月)	三十二年度第三十一年度第二・四半期(十月十二月)	二十二年一月	二月
普通鋼材生産高	七六、四三	八五、七四	二六、六〇(計画)	二六、四二
石炭向配当量	一三、〇七	一七、五九	二五、〇〇(計画)	一三、七九

三、電力・輸送

電力部門に対する配炭は目標二十六万九千トンに対し実績十七万二千トンに過ぎず、特に関西地区の如き目標八万トンに対し実績僅か二万トン弱であった。此の爲め重要工場、公共施設迄著しい消費規整を蒙り、一般家庭に至つては数日連続して送電停止が行われた地区も見受けられた。

次に輸送部門に対する配炭も六十四万四千トンと、前月に比し三万四千トンの減少を示したる爲め、国鉄貨物輸送実績は月中七百五十六万トンと、目標額八百四十一万四千トンに対し八十五万トンの不足を来した。鉄道輸送に閑暇し忘却し得ざる一事は、二月二十五日発生せる八高線の惨事である。即ち埼玉県高麗川駅附近に於て、食糧買出し客並に通勤旅客を満載せる六台編成の旅客列車の脱線転覆をみ、一瞬にして死傷者五百余名、内死者百八十七名を出すという国鉄創業以来の犠牲者を出した。その原因の一半が機関士の運転技術の拙劣によることも確か乍ら、之が基底に修理を必要とする老朽車の酷使、都市住宅難の爲め遠距離通勤、遅配欠配の爲めの食糧買出し狂奔という一聯の現象を發見するのであり、従つて此の事件は我國經濟の直面する深刻なる危機の一縮図と断ぜざるを得ない。

なお種々の悪条件の累積により危機的狀態を呈しおる鉄道輸送力を補強する爲め、石炭、鉄鉱石、木材等の大口輸送貨物を極力海運に移転せしめる事は極めて

望ましいが、優秀船腹の不足、燃料、荷造資材等の逼迫、港湾荷役力の不足、海上輸送費の鉄道輸送費に対する割高等の理由に災せられ、海上貨物輸送量実績は一月中五十五万トン、二月中五十六万トンと鉄道輸送量に比し問題にならぬ程の少量に過ぎない。月中鉄鋼に対する配炭実績が計画を遙かに下廻つたのも瀬戸内海方面の機帆船運行が下旬に入り燃料不足の爲め極度に渋滞せる結果である。

国鉄貨物輸送計画並に実績

(単位 千吨)

年 月	三十二年度第三十一年度第一・四半期(四一六月)	三十二年度第三十一年度第二・四半期(七月九月)	三十二年度第三十二年度第一・四半期(十月十二月)	昭和二十二年一月	二月
輸送計画	二二、九七	二五、九三	二五、〇五	七、四四	八、四二
輸送実績	二四、七三	二五、三九	二五、四三	七、三九	七、五六

四、食糧

二月末迄の主食供出累計額は二千八百八十二万石と計画量に対し七十七%に達したが、月中の供出高は僅か百二十五万石に止まり、前月に比し更に著しい停滞傾向を示した。之を地区別に考察するに、百%超過せる地方は大体に於て米穀の消費累なるに対し、秋田、山形、新潟、岡山、広島、青森等の生産累の低調が極めて顕著である。その理由は米穀買上価格に対する農民の不満も去る事乍ら、極左系の地方ボスに指導せらるゝ農民組合の供出阻止の事実も看過し難い。なお此の如き供出不振に輸送難が加わり、消費地に於ける遅配状況は前月に比し著しく深刻の度を加えた。例えば東京都の遅配日数は平均十一日半であり、北海道の如き是最長二十二日強に及んでいる。

食糧供出量

(括弧内数字は供出割当量二千八百万石に対する遂行率を示す)

(単位 千石)

年 月	昭和二十二年九月	十月	十一月	十二月	昭和二十二年一月	二月
月中供出高	九九	三、七六七	三、〇七	八、〇六六	四、〇五	一、三五九
月末供出累計高	(三・二%)	(二六・七%)	(元・五%)	(五・二%)	(七・九%)	(七・七%)

五、貿易

二月中の輸入実績は食糧三億九千万円、肥料八千五百万円、石油四千百万円、棉花三千二百万円等、計四億六千七百万円、之に対し輸出実績は繊維製品一億七千万円、石炭二千七百万円、金属一千四百万円、紙類一千四百万円等、計二億七千九百万円で、差引一億八千八百万円の入超を示した。輸入に付ては殆んど米國依存なること従前通りなるも、輸出に付ては従来総額の五十%乃至六十%を占めていた同國に対する輸出が、今月は僅か総額の四・三%に減少せる事が注目せられる。その理由は生糸の米國市場に於ける売行不振に因る同國向輸出の激減せ

る事と、輸入棉花を原料とする綿製品の生産進捗により、月中蘭印を始めとして香港セイロン等に相当量輸出せられたる事に歸すべきであらう。綿製品の輸出が漸く軌道に乗り始めたる事實は喜ばしいが、生糸以外に米國向輸出適格品の存せざることは、同國に対する依存度高き我國貿易の将来にとり憂慮さるべき点である。次に月中に於ける貿易資金は収入五億三百万円、支出七億六百万円と入超なるにも拘らず二億三百万円の赤字を現出し、依然銀行券増発の一原因をなしている。

輸出入品目別内訳

年 月	輸 出 合 計		輸 入 合 計	差 引 出 入 (-) 超
	内 石 炭 金 属 機 械	織 維 類		
昭和二十一年 六月迄累計	九五四	二九八	五八八	三八五
七 月	三三〇	一三九	八六七	五四七
八 月	三七八	一二二	九四七	五六八
九 月	四一三	一九〇	三三三	一〇〇
十 月	三七二	六八	五二二	一四〇
十一 月	二四一	六八	一七七	六三
十二 月	二二六	八八	一〇	一五
二十二年 一 月	三二七	一四一	三九九	八二
二 月	二七九	四四	一〇	一八八
合 計	一、九〇〇	三、三三三	四、一	一、四三三

(単位 百万円)

貿易資金勘定収支

年 月	取 入		支 出 (-) 超過		差 引 取 入 (-) 超過
	入	出	入	出	
二十一年 五月	七六	一三三	六三	一三三	六三
六 月	一四	六九	五五	六九	一四
七 月	一一二	三三二	二〇〇	三三二	一一二
八 月	〇	二七	二七	二七	〇
九 月	一三六	三二八	一九二	三二八	一三六
十 月	二九	二一五	一八六	二一五	二九
十一 月	四一〇	七五四	三四四	七五四	四一〇
十二 月	四三八	六八一	二四三	六八一	四三八
二十二年 一 月	一八二	二二六	四四	二二六	一八二
二 月	五〇三	七〇六	二〇三	七〇六	五〇三
合 計	一、九〇〇	三、三三三	一、四三三	三、三三三	一、九〇〇

(単位 百万円)

三万田總裁は二十四日市中金融機関代表者を日本銀行に招集し、三月一日より実施せらるべき市中金融機関の貸出制限に關聯し、日本銀行としても原則として市

中金融機関の新勘定預金残高の1%を超える貸出に対しては高率を適用する旨説明し、従前の如き日本銀行依存の是正を要望する所があつた。

国債発行高、償還高及引受先、償還先別内訳

(単位 百万円)

年 月	発行高	引 受 先 別 内 訳			償 還 高	償 還 先 別 内 訳			月末現在高
		日本銀行	預金部	其ノ他		日本銀行	預金部	其ノ他	
二 月 中 (前 月 中)	一一、二八七 (六、四二六)	一一、二八七 (六、四二六)	()	()	()	()	()	一六八、二二一 (一五六、九二五)	

大蔵省証券発行高、償還高及引受先、償還先別内訳

(単位 百万円)

年 月	発行高	引 受 先 別 内 訳			償 還 高	償 還 先 別 内 訳			月末現在高
		日本銀行	預金部	其ノ他		日本銀行	預金部	其ノ他	
二 月 中 (前 月 中)	九、〇〇〇 (六、五〇〇)	九、〇〇〇 (六、五〇〇)	()	()	八、〇〇〇 (五、〇〇〇)	八、〇〇〇 (四、〇〇〇)	(一、〇〇〇)	二四、五〇〇 (一三、五〇〇)	

八大銀行自由預金(公金、同業者預金を含まず)(単位 百万円)

八大銀行新勘定貸出

(単位 百万円)

年 月	昭和二十一年九月	十月	十一月	十二月	昭和二十二年一月	二 月
月中増加	三、二一六	三、三九六	一、七三三	三、三〇三	一、五七六	二、七三三
月末残高	八、一九二	一〇、五九〇	一二、三二二	一四、六二四	一六、一九〇	一八、九三三

年 月	昭和二十一年九月	十月	十一月	十二月	昭和二十二年一月	二 月
月中増加	三、三五四	二、八〇三	三、四七七	四、七九	二、三三四	三、七四
月末残高	八、一〇九	一〇、九二二	一四、三九八	一九、三三七	二、四六	二五、一七五

全国自由預金

(公金、同業者預金を含まず、郵便貯金、農業会等は推定)

(単位 百万円)

年 月	昭和二十一年九月	十月	十一月	十二月	昭和二十二年一月	二 月
月中増加	六、二七九	七、七〇四	七、三三三	一〇、五〇〇	六、八〇八	
月末残高	二六、〇四三	三三、七四六	四〇、九七九	五、五九	五八、三三七	

全国銀行新勘定貸出

(単位 百万円)

年 月	昭和二十一年九月	十月	十一月	十二月	昭和二十二年一月	二 月
月中増加	七、〇四二	六、二九九	六、四九〇	一一、七六六	五、八四二	五、二三五
月末残高	一六、五五五	二二、八四四	二九、三三四	四〇、六〇	四六、八〇二	五三、〇〇六

八、通 貨

日本銀行券の月中増発高は五十四億円月末残高は一千五十四億円に達した。前月中の増発高六十六億円に比すれば若干の停滞が認められるが、生産の縮小を考慮に容れる時そのインフレーションに及ぼす影響の甚大なる事は容易に望見し得る。尚増加の原因を主として日本銀行勘定に依拠して分析するに政府関係三十億

円民間関係二十四億円と推定せられる。財政の対民間収支(預金部関係を除く)は前述の如く八億円に過ぎないが、月中に於ける日本銀行の交付食糧証券買入超過額中二十二億円は、本来政府支払に属すべき分を日本銀行に於て一時立替えたるものと考へるべき故、之を政府関係に加算した次第である。

日本銀行券発行高

(単位 百万円)

年	月	昭和二十一年	昭和二十二年
年中	増加	八、一四二	六、四四三
月末	残高	三六、三一五	四二、七五八
		四二、七五八	四九、七三〇
		五七、五七一	六四、四三五
		六四、四三五	七〇、五八九
		七四、八一六	九三、三九七
		一〇〇、〇四〇	一〇五、四八九
		一〇五、四八九	一一一、五八一
		一一一、五八一	一二一、二二七
		一二一、二二七	一三二、〇六三
		一三二、〇六三	一四三、五七二
		一四三、五七二	一五五、二二二
		一五五、二二二	一六七、〇三三
		一六七、〇三三	一七八、七九一
		一七八、七九一	一九〇、六三二
		一九〇、六三二	二〇二、四七三
		二〇二、四七三	二一四、三一四
		二一四、三一四	二二六、一五五
		二二六、一五五	二三八、〇〇
		二三八、〇〇	二四九、八四一
		二四九、八四一	二六一、六八二
		二六一、六八二	二七三、五二三
		二七三、五二三	二八五、三七四
		二八五、三七四	二九七、二一五
		二九七、二一五	三〇九、〇五六
		三〇九、〇五六	三二〇、八九七
		三二〇、八九七	三三二、七三八
		三三二、七三八	三四四、五七九
		三四四、五七九	三五六、四二〇
		三五六、四二〇	三六八、二六一
		三六八、二六一	三八〇、一〇二
		三八〇、一〇二	三九一、九四三
		三九一、九四三	四〇三、七八四
		四〇三、七八四	四一五、六二五
		四一五、六二五	四二七、四六六
		四二七、四六六	四三九、三〇七
		四三九、三〇七	四五〇、一四八
		四五〇、一四八	四六二、〇〇
		四六二、〇〇	四七三、八四一
		四七三、八四一	四八五、六八二
		四八五、六八二	四九七、五二三
		四九七、五二三	五〇九、三八四
		五〇九、三八四	五二一、二二五
		五二一、二二五	五三二、〇六六
		五三二、〇六六	五四三、九〇七
		五四三、九〇七	五五五、七四八
		五五五、七四八	五六七、五八九
		五六七、五八九	五七九、四三〇
		五七九、四三〇	五九一、二七一
		五九一、二七一	六〇三、〇八二
		六〇三、〇八二	六一四、九二三
		六一四、九二三	六二六、七八四
		六二六、七八四	六三八、六二五
		六三八、六二五	六五〇、四六六
		六五〇、四六六	六六二、三〇七
		六六二、三〇七	六七四、一四八
		六七四、一四八	六八五、九八九
		六八五、九八九	六九七、八三〇
		六九七、八三〇	七〇九、六七一
		七〇九、六七一	七二一、五一二
		七二一、五一二	七三三、四〇三
		七三三、四〇三	七四五、二八四
		七四五、二八四	七五七、一六五
		七五七、一六五	七六九、〇四六
		七六九、〇四六	七八〇、九二七
		七八〇、九二七	七九二、八〇八
		七九二、八〇八	八〇四、六八九
		八〇四、六八九	八一六、五七〇
		八一六、五七〇	八二八、四五一
		八二八、四五一	八四〇、三三二
		八四〇、三三二	八五二、二一三
		八五二、二一三	八六四、〇九四
		八六四、〇九四	八七五、九七五
		八七五、九七五	八八七、八五六
		八八七、八五六	八九九、七三六
		八九九、七三六	九一一、六一七
		九一一、六一七	九二3、498
		九23、498	935、379
		935、379	947、260
		947、260	959、141
		959、141	971、022
		971、022	982、903
		982、903	994、784
		994、784	1006、665
		1006、665	1018、546
		1018、546	1030、427
		1030、427	1042、308
		1042、308	1054、189
		1054、189	1066、070
		1066、070	1077、951
		1077、951	1089、832
		1089、832	1101、713
		1101、713	1113、594
		1113、594	1125、475
		1125、475	1137、356
		1137、356	1149、237
		1149、237	1161、118
		1161、118	1172、999
		1172、999	1184、880
		1184、880	1196、761
		1196、761	1208、642
		1208、642	1220、523
		1220、523	1232、404
		1232、404	1244、285
		1244、285	1256、166
		1256、166	1268、047
		1268、047	1279、928
		1279、928	1291、809
		1291、809	1303、690
		1303、690	1315、571
		1315、571	1327、452
		1327、452	1339、333
		1339、333	1351、214
		1351、214	1363、095
		1363、095	1374、976
		1374、976	1386、857
		1386、857	1398、738
		1398、738	1410、619
		1410、619	1422、500
		1422、500	1434、381
		1434、381	1446、262
		1446、262	1458、143
		1458、143	1470、024
		1470、024	1481、905
		1481、905	1493、786
		1493、786	1505、667
		1505、667	1517、548
		1517、548	1529、429
		1529、429	1541、310
		1541、310	1553、191
		1553、191	1565、072
		1565、072	1576、953
		1576、953	1588、834
		1588、834	1600、715
		1600、715	1612、596
		1612、596	1624、477
		1624、477	1636、358
		1636、358	1648、239
		1648、239	1660、120
		1660、120	1672、001
		1672、001	1683、882
		1683、882	1695、763
		1695、763	1707、644
		1707、644	1719、525
		1719、525	1731、406
		1731、406	1743、287
		1743、287	1755、168
		1755、168	1767、049
		1767、049	1778、930
		1778、930	1790、811
		1790、811	1802、692
		1802、692	1814、573
		1814、573	1826、454
		1826、454	1838、335
		1838、335	1850、216
		1850、216	1862、097
		1862、097	1873、978
		1873、978	1885、859
		1885、859	1897、740
		1897、740	1909、621
		1909、621	1921、502
		1921、502	1933、383
		1933、383	1945、264
		1945、264	1957、145
		1957、145	1969、026
		1969、026	1980、907
		1980、907	1992、788
		1992、788	2004、669
		2004、669	2016、550
		2016、550	2028、431
		2028、431	2040、312
		2040、312	2052、193
		2052、193	2064、074
		2064、074	2075、955
		2075、955	2087、836
		2087、836	2099、717
		2099、717	2111、598
		2111、598	2123、479
		2123、479	2135、360
		2135、360	2147、241
		2147、241	2159、122
		2159、122	2171、003
		2171、003	2182、884
		2182、884	2194、765
		2194、765	2206、646
		2206、646	2218、527
		2218、527	2230、408
		2230、408	2242、289
		2242、289	2254、170
		2254、170	2266、051
		2266、051	2277、932
		2277、932	2289、813
		2289、813	2301、694
		2301、694	2313、575
		2313、575	2325、456
		2325、456	2337、337
		2337、337	2349、218
		2349、218	2361、099
		2361、099	2372、980
		2372、980	2384、861
		2384、861	2396、742
		2396、742	2408、623
		2408、623	2420、504
		2420、504	2432、385
		2432、385	2444、266
		2444、266	2456、147
		2456、147	2468、028
		2468、028	2479、909
		2479、909	2491、790
		2491、790	2503、671
		2503、671	2515、552
		2515、552	2527、433
		2527、433	2539、314
		2539、314	2551、195
		2551、195	2563、076
		2563、076	2574、957
		2574、957	2586、838
		2586、838	2598、719
		2598、719	2610、600
		2610、600	2622、481
		2622、481	2634、362
		2634、362	2646、243
		2646、243	2658、124
		2658、124	2670、005
		2670、005	2681、886
		2681、886	2693、767
		2693、767	2705、648
		2705、648	2717、529
		2717、529	2729、410
		2729、410	2741、291
		2741、291	2753、172
		2753、172	2765、053
		2765、053	2776、934
		2776、934	2788、815
		2788、815	2800、696
		2800、696	2812、577
		2812、577	2824、458
		2824、458	2836、339
		2836、339	2848、220
		2848、220	2860、101
		2860、101	2871、982
		2871、982	2883、863
		2883、863	2895、744
		2895、744	2907、625
		2907、625	2919、506
		2919、506	2931、387
		2931、387	2943、268
		2943、268	2955、149
		2955、149	2967、030
		2967、030	2978、911
		2978、911	2990、792
		2990、792	3002、673
		3002、673	3014、554
		3014、554	3026、435
		3026、435	3038、316
		3038、316	3050、197
		3050、197	3062、078
		3062、078	3073、959
		3073、959	3085、840
		3085、840	3097、721
		3097、721	3109、602
		3109、602	3121、483
		3121、483	3133、364
		3133、364	3145、245
		3145、245	3157、126
		3157、126	3169、007
		3169、007	3180、888
		3180、888	3192、769
		31	

十、闇取引取締の強化

流通過程に於ける闇の跋扈は今や歴然たる事実と化しつゝあるが、之を放任するに於ては經濟再建に必要不可欠なる基礎産業の生産を阻害すると共に、最低限を彷徨しつゝある國民生活を愈々危殆に瀕せしめる惧れがある。茲に於て昨年十一月政府は、指定生産資材割当手続規定の制定により十七品目に亘る生産資材を指定し、その配給統制強化に着手したが、本月十日更に指定配給物資配給手続規定を制定し、國民生活必需物資四十九品目を指定し、生産者から消費者に至る迄の各段階を通じ切符による配給統制を嚴格化し、流通過程に於ける横流れを防止する方針を定めた。更に右に呼応して十五日不急物品製造販売制限規則を制定し、皮製品、ゴム製品其他八十七品目の製造販売を禁止し、以て重要産業部門に対する資材の配給確保を図る事とした。

尚二月七日以降関東信越地区を始めとして、殆んど全国的に闇取引の取締が強化せられ幾多の悲喜劇を生んだが、之と共に統制物資は急激に市場より姿をくらまし、一般家庭に対する配給は毫も増加せざるのみか、闇価格は愈々騰貴するという皮肉な結果を惹起しつゝある。

昭和二十二年三月

一、概況	二、産業	三、電力・輸送
四、食糧	五、貿易	六、財政
七、金融	八、通貨	九、物価
十、株式市場の活況		

一、概況

前月に引続き生産の停滞通貨の増発は改まらず、インフレーションは愈々悪化

の一路を辿りつゝある。此の時に当り連合軍最高司令官マッカーサー元帥は吉田内閣総理大臣宛書翰を送り、供米の促進、価格、賃銀、物資統制の強化、闇取引の根絶、經濟綜合対策の樹立と強力なる推進の諸点に付日本政府の注意を促し、先づ日本自らの努力なくしては十分な外国よりの援助は期待し難き事を強調せられた。

三十日議會を通過せる独占禁止法が將來の我國經濟体制を明示したものとすれば、此の書翰は悪性インフレーションに直面せる現在の我國にとつて採るべき唯一の經濟政策の基調なりと云わねばならず、之を真に実行するが為には政府当局並に國民一般の一段の努力と心からなる協力を必要とするであらう。

二、産業

三月中に於ける石炭の生産は二百二十八万九千トンに達し、昨年十二月の二百十九万トンを凌駕し終戦以来の最高記録を示したが、目標二百四十八万七千トンに対しては十九万八千トンの不足であつた。その理由は北海道の出炭が比較的良なりしし点对し、九州の出炭が鋼材、坑木、電力の不足に災せられ著しく成績不良なりし点に求められる。鉄鋼部門に対する配炭実績は十八万二千トンと割当の八十・五%に過ぎず、此の爲め鉄鋼の生産は銑鉄目標二万九千トンに対し実績一万六千トン鋼材目標四万九千トンに対し実績三万三千トンと著しく不振を示した。従つて石炭部門に対する鋼材の割当実績は中旬迄の予定三万トンに対し月末に至るも漸く二万六千トンに止まつた。かくて一月以降発足せる石炭鉄鋼を中核とする超重点主義は単にその目標を達せざりしのみならず、その実行の過程に於て重点外産業部門に幾多の混乱を惹起せしめるに止まつた様である。

次に一般重要工業に付見るに、電力制限の緩和により幾分好転せるものも見受けられたが、全般としてはなお前月と大差なきものと推測せられる。綿糸、生糸の生産は実績目標に対し各百十一%、八十%であつた。化学肥料の生産は絶対量に於てこそ増加の傾向を示しているが、目標に対しては硫酸八十七%石灰窒素五十六%に止まり、春肥不足の愈々切なるものを感じしめる。